

「四国の道づくりを考える」公開シンポジウム

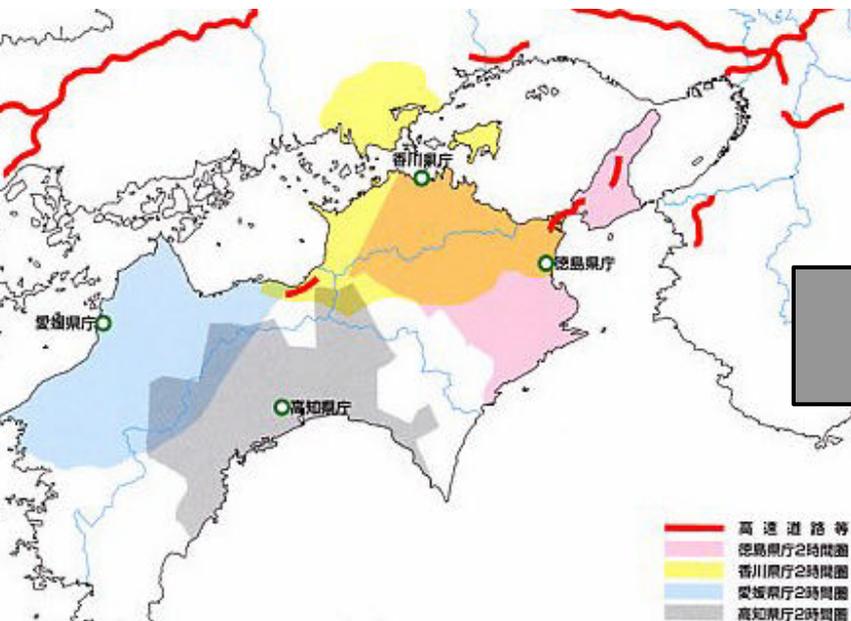


四国の道は今。そして抱える課題とは…。

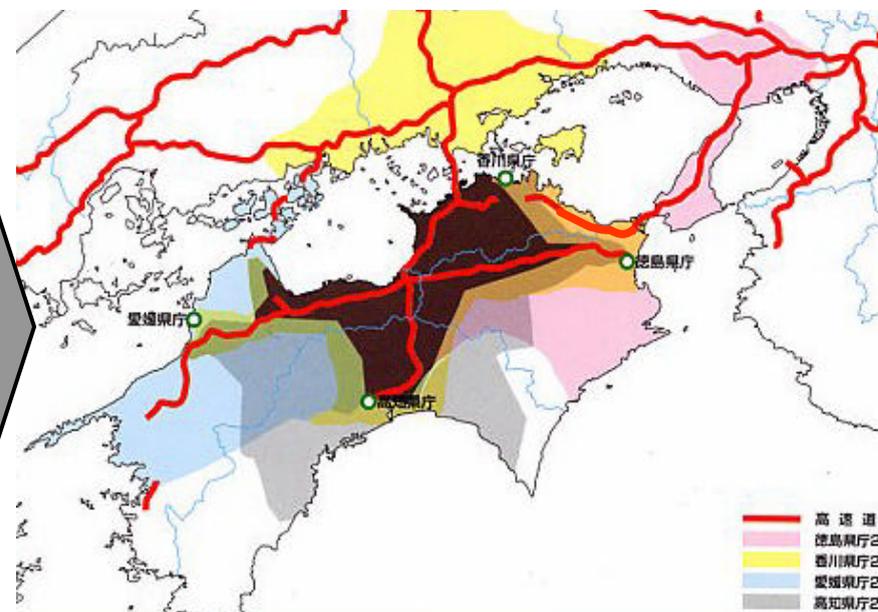
四国地方幹線道路協議会

020824

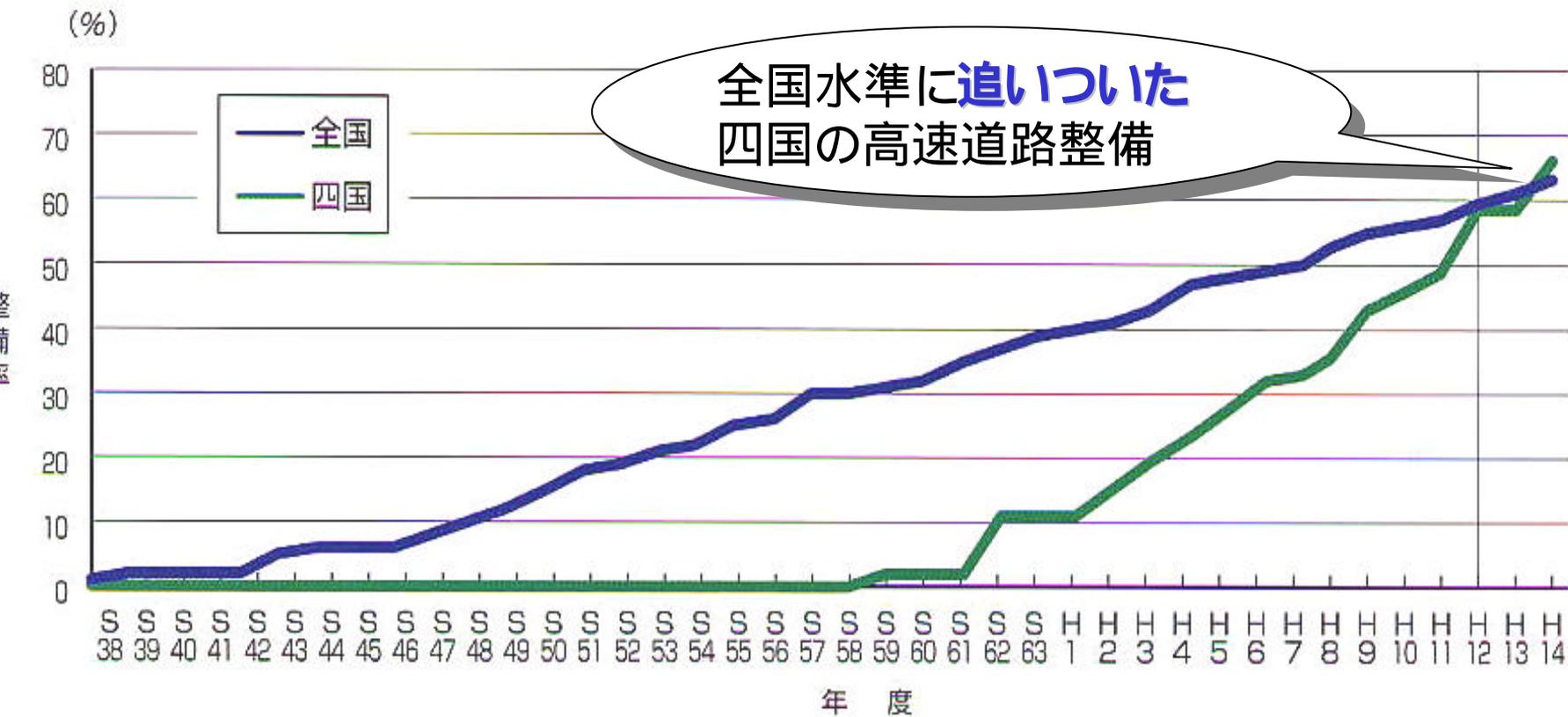
大鳴門橋の開通 (1985年)



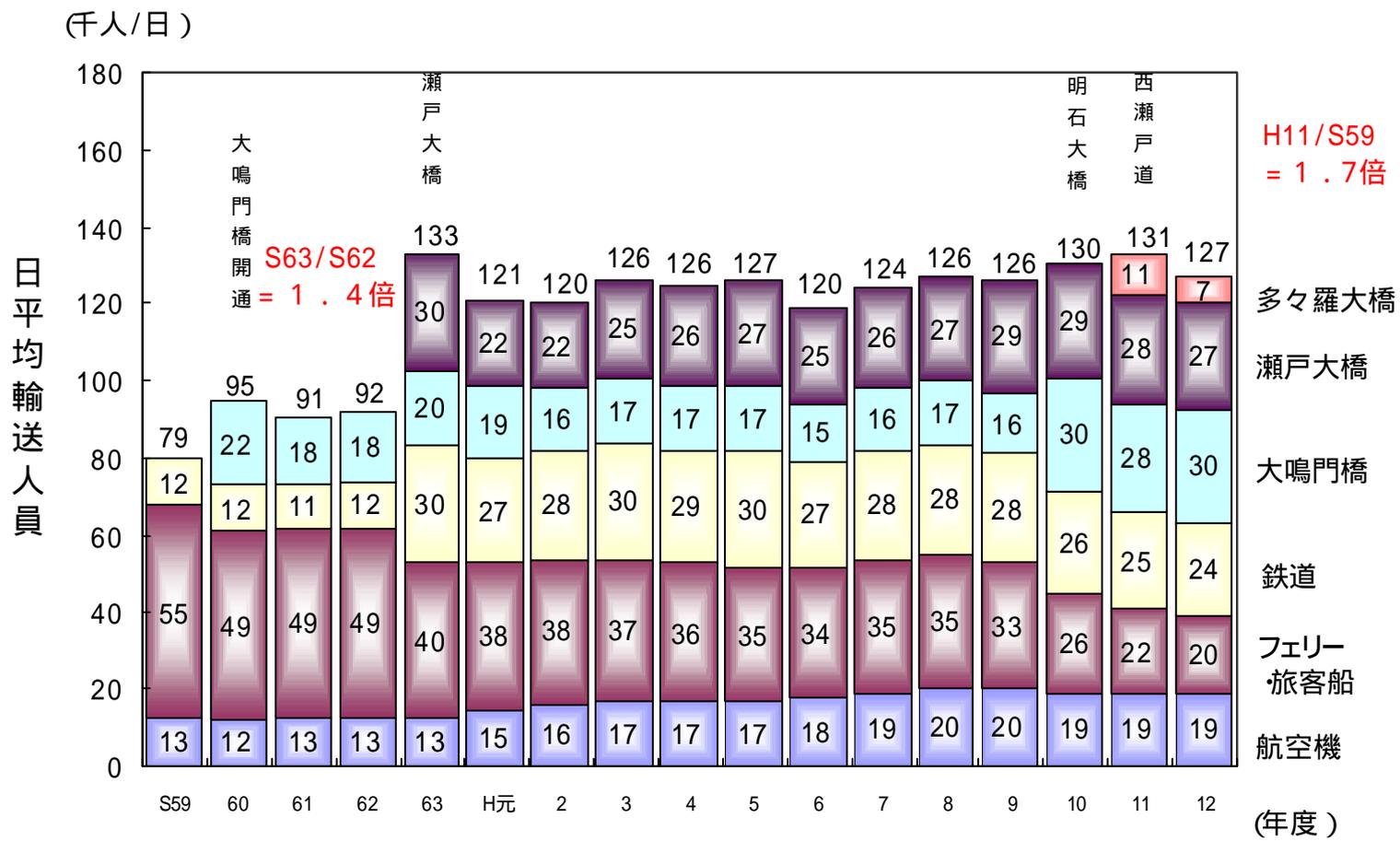
Xハイウェイにより4県都が連結 (現在)



出典 :四国地方整備局 「この100年をふりかえり明日の四国につなげ



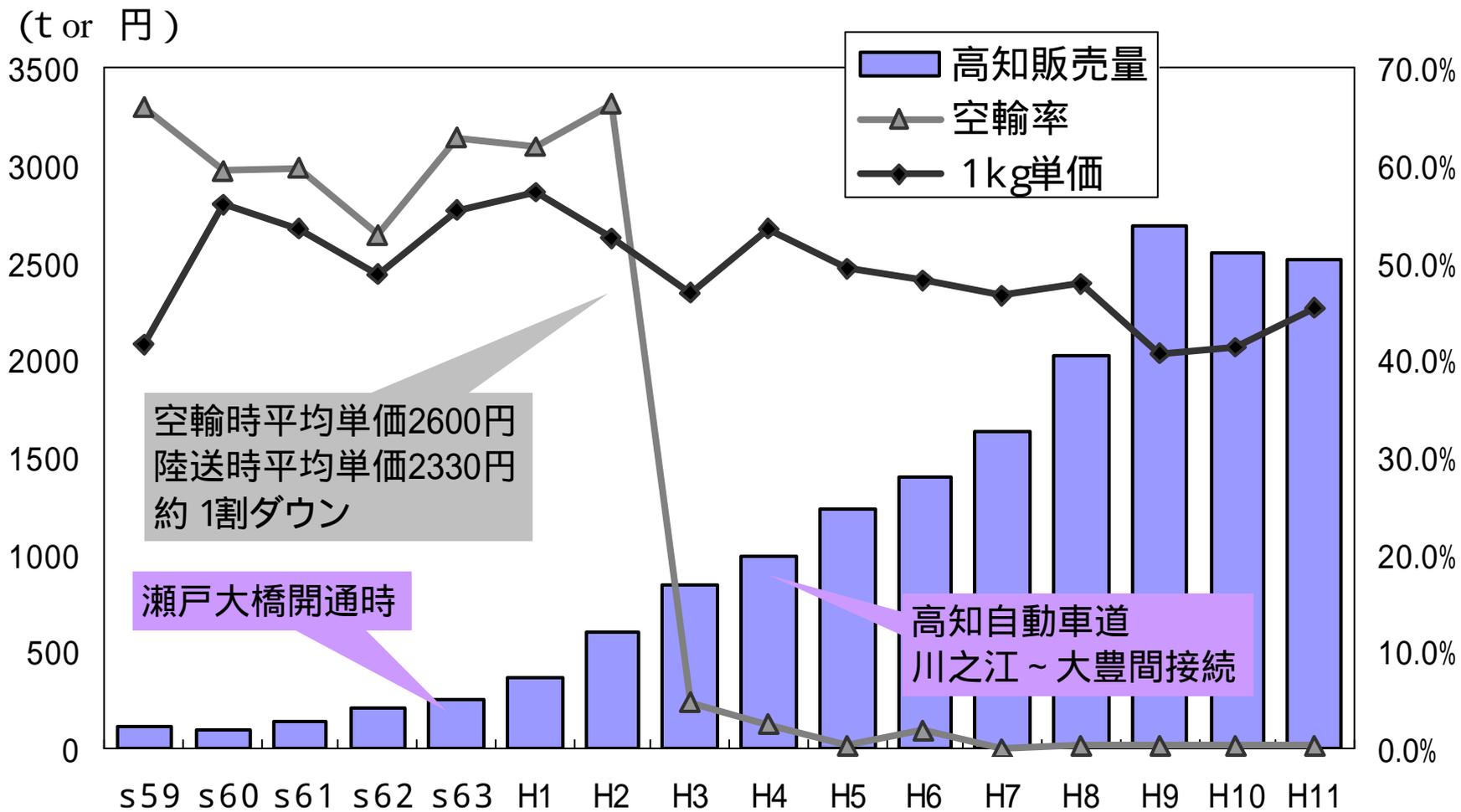
出典：JH四国支社事業概要より(200



出典 : 四国運輸局、本州四国連絡橋公団データ

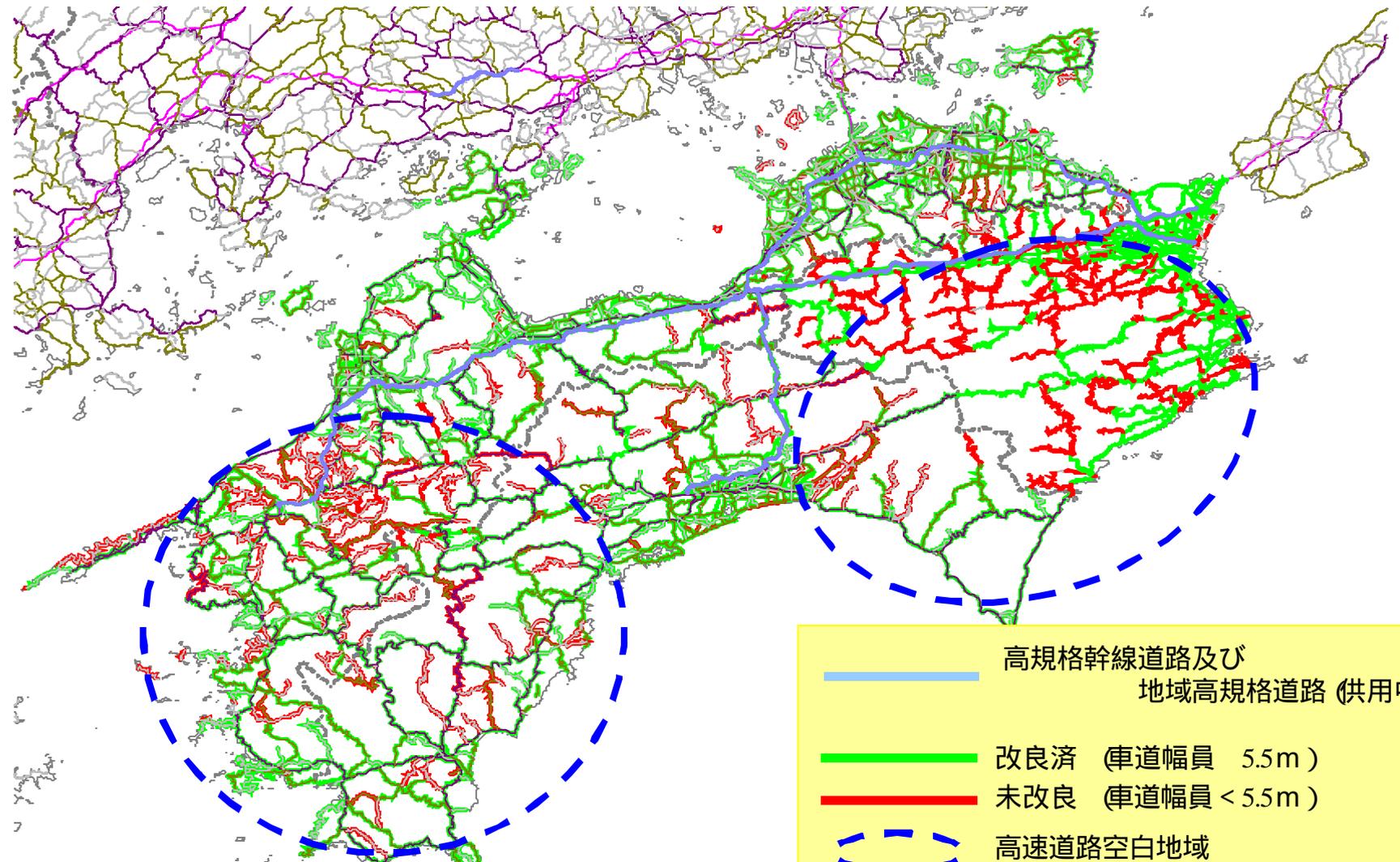
●高規格道路の供用により農産物の販売量が急増

ミョウガ販売量・輸送率・販売単価の推移

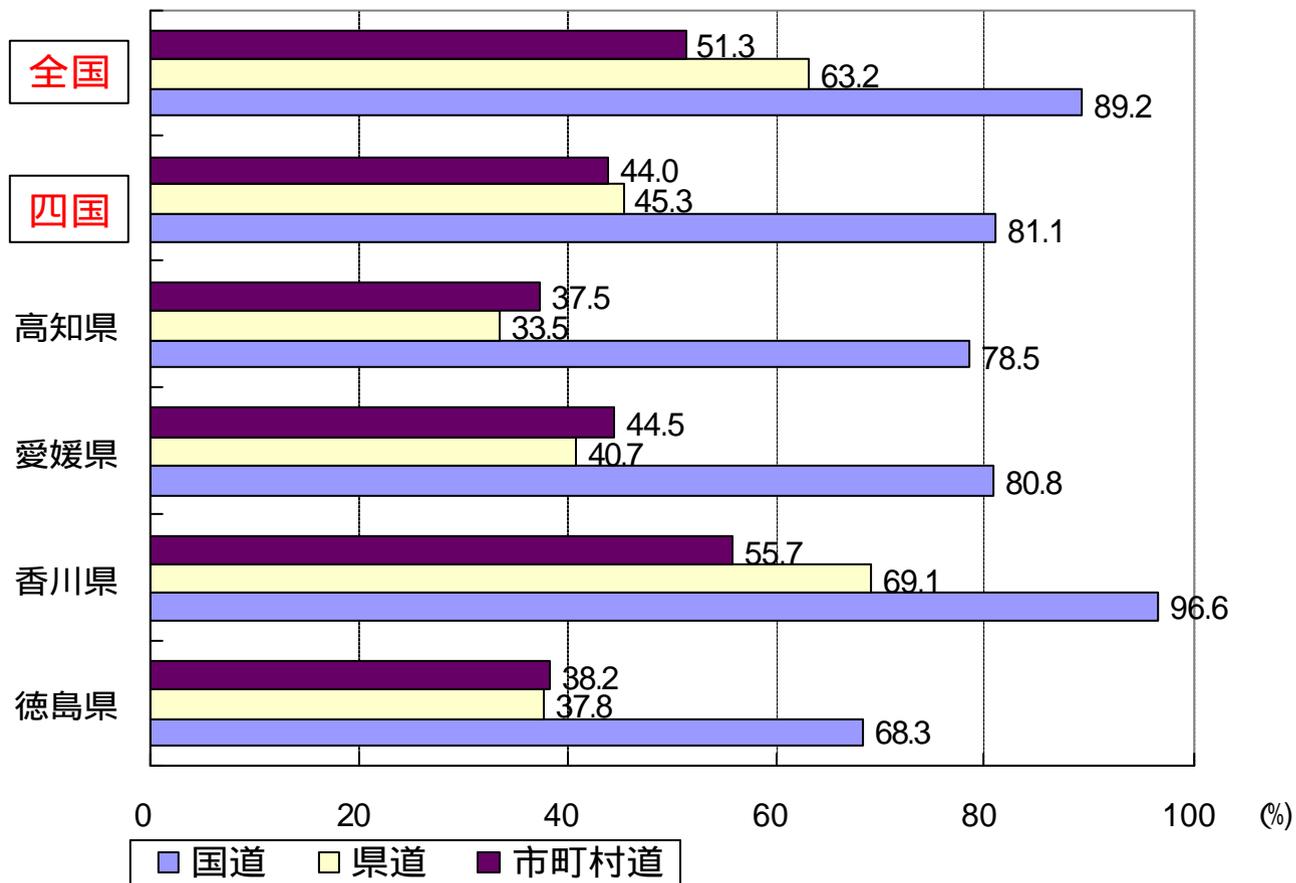


●一般道路の整備も遅れている高速交通空白地域

改良済の道路と未改良の道路 (県道以上)

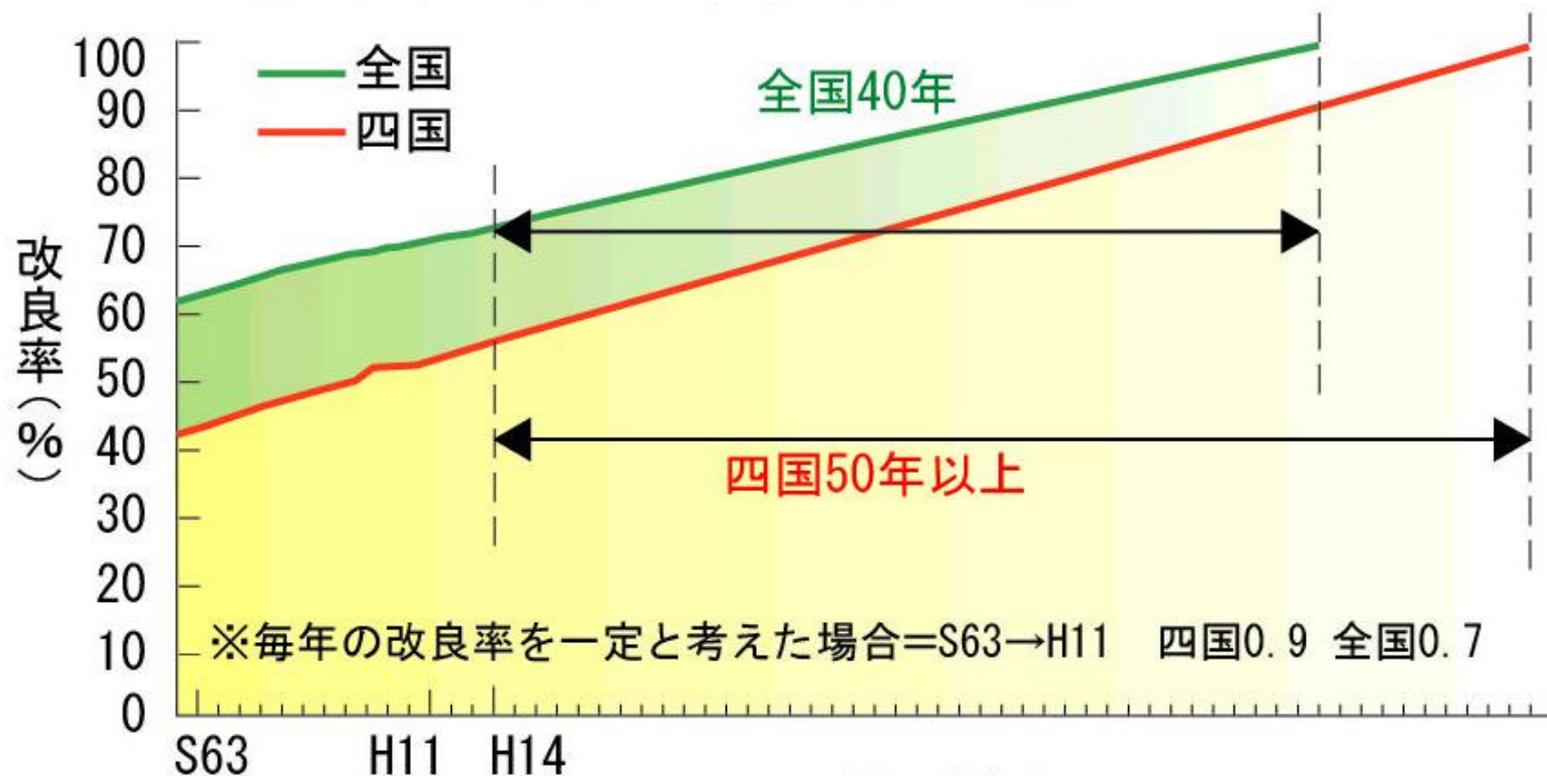


道路整備の水準 (改良率)

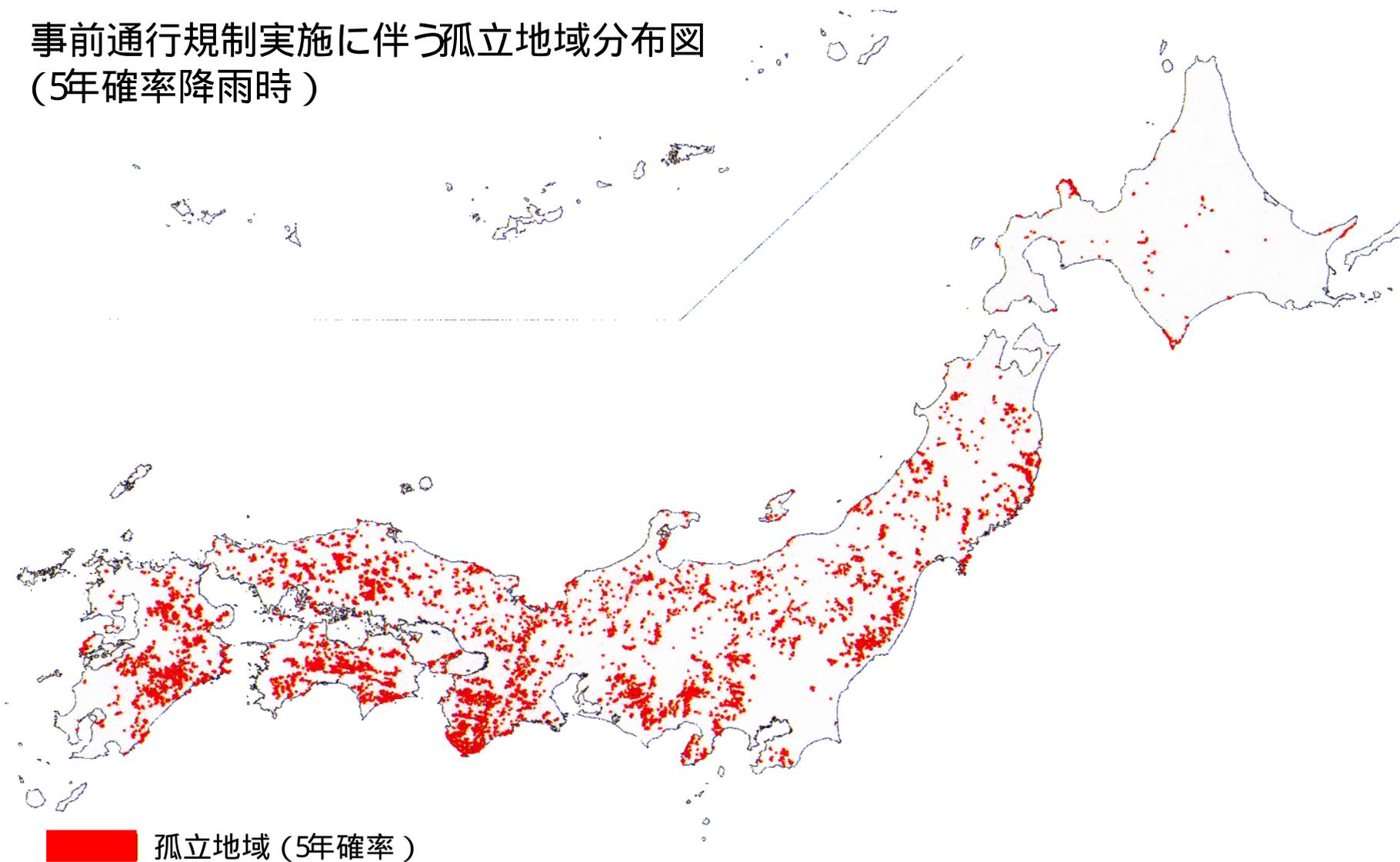


改良率 : 全道路延長に対するすれ違いができない道路幅 (W 5.5) が確保された道路延長割合

50年以上かかる四国の国道・県道整備

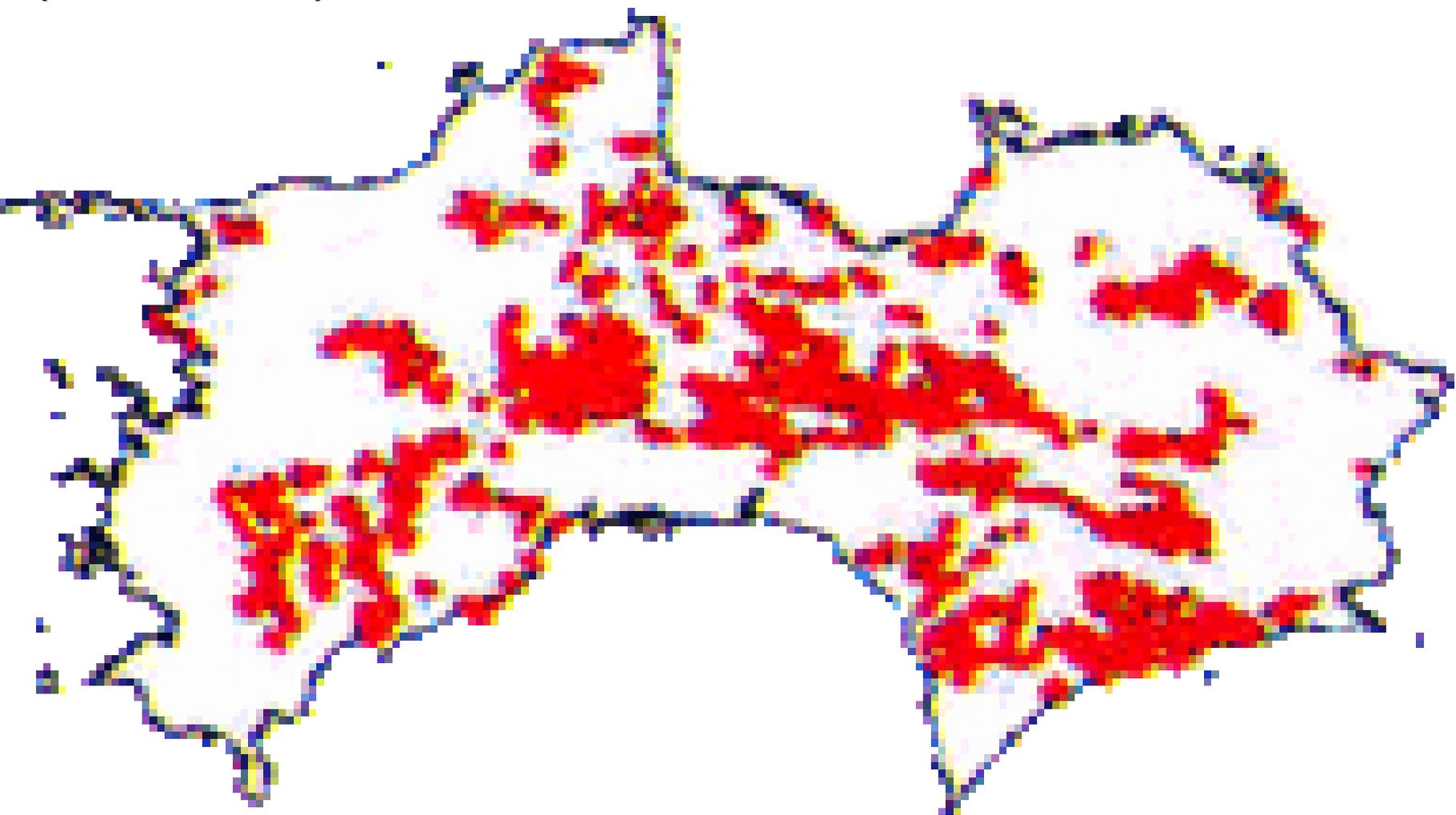


事前通行規制実施に伴う孤立地域分布図
(5年確率降雨時)



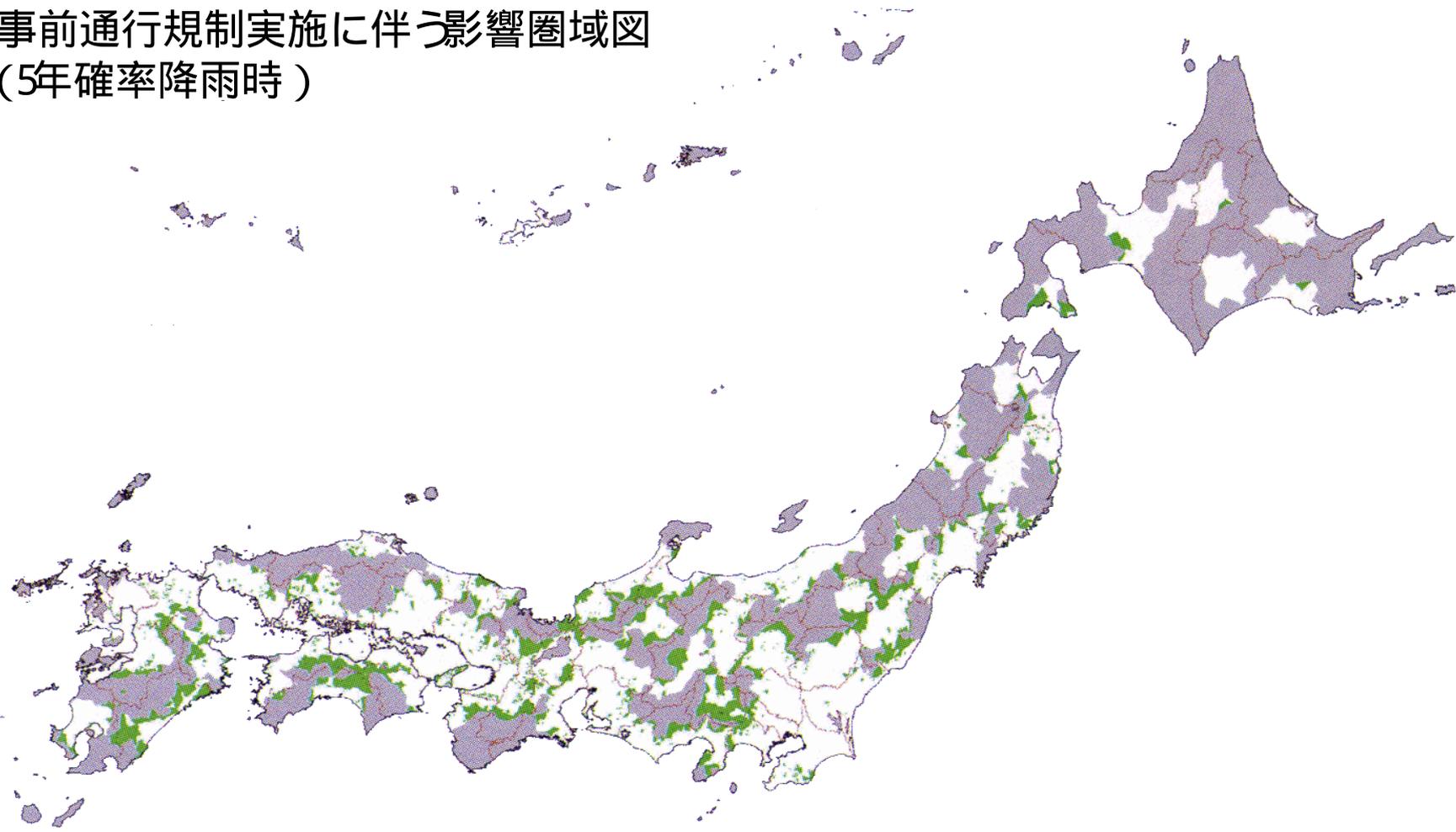
孤立地域 (5年確率)

事前通行規制実施に伴う孤立地域分布図
(5年確率降雨時)



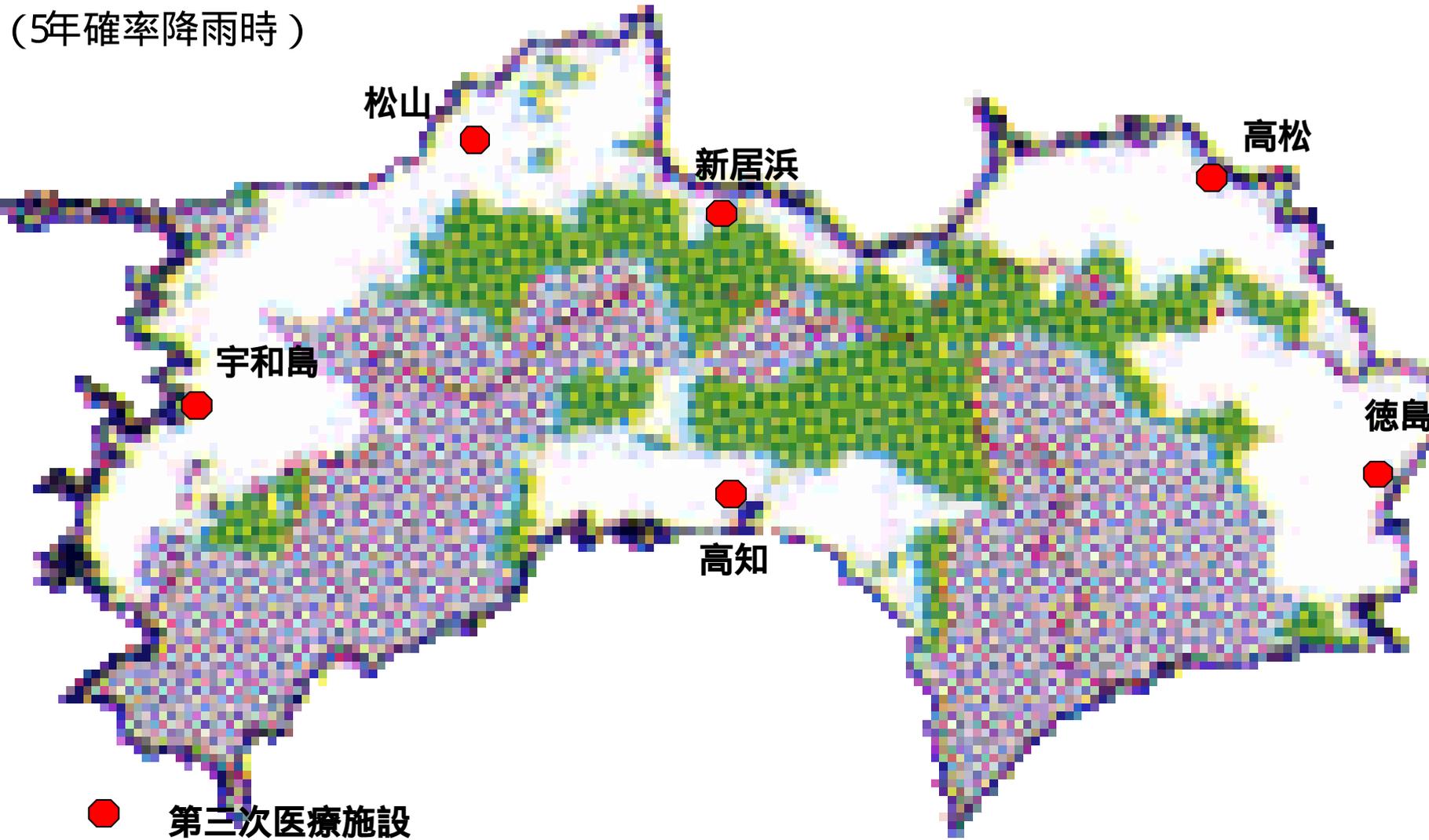
■ 孤立地域 (5年確率)

事前通行規制実施に伴う影響圏域図 (5年確率降雨時)



-  5年に一度の大雨で、60分以内に三次医療が受けられない地域
-  もともと60分以内に受けられない地域

事前通行規制実施に伴う影響圏域図
(5年確率降雨時)



● 第三次医療施設

■ 5年に一度の大雨で、60分以内に三次医療が受けられない地域

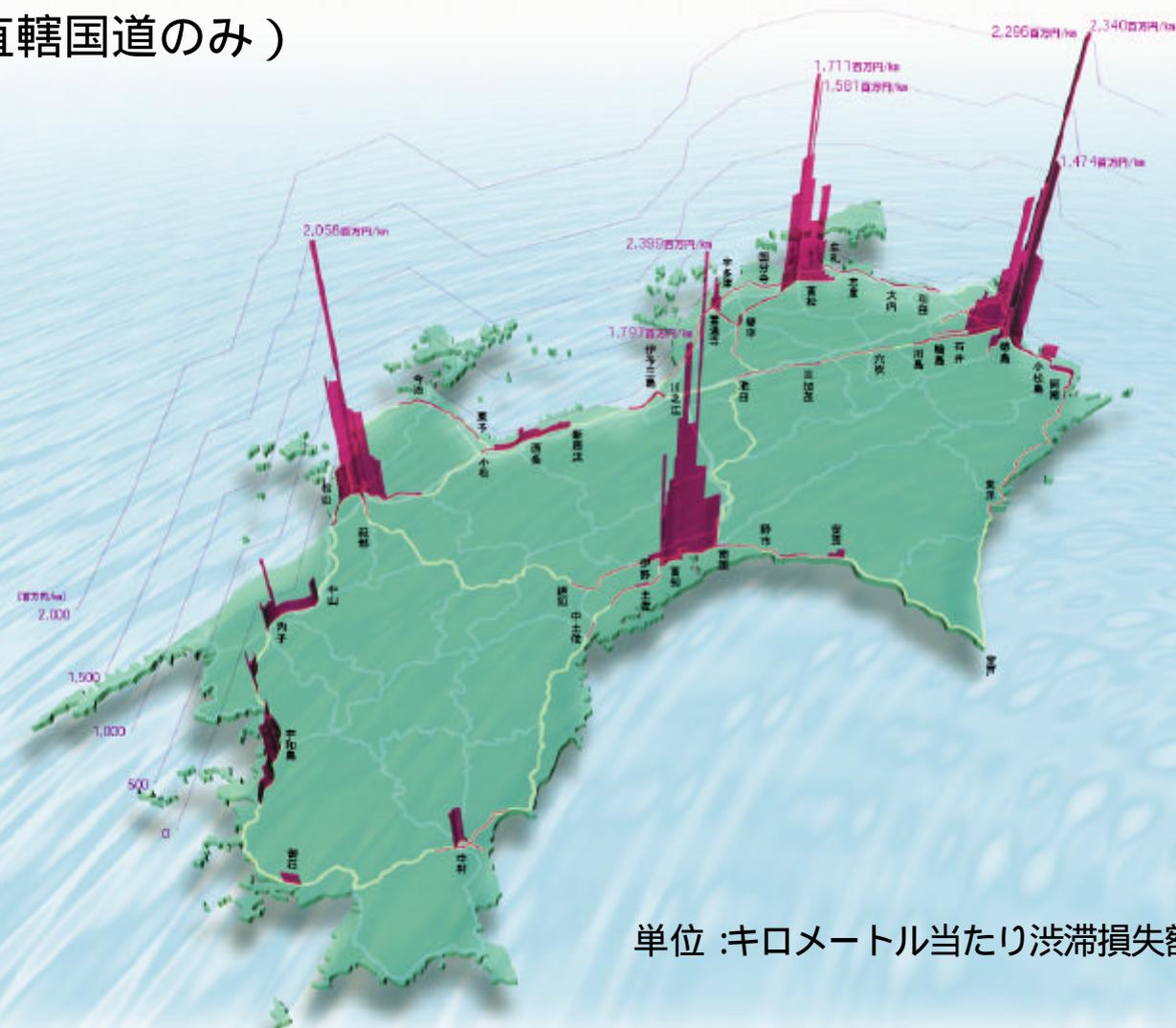
■ まとまと60分以内に受けられない地域

事前通行規制・災害による暮らしへの影響

項 目	全 国	四 国	四国 / 全国
<p>孤立地域人口</p> <p>事前通行規制に伴う孤立地域人口の割合 (5年確立降雨時)</p>	<p>(150万人) 1.2%</p>	<p>(13万 人) 3.1%</p>	<p>2.6倍</p>
<p>医療</p> <p>事前通行規制に伴い60分以内に3次医療を受ける ことができない人口の割合 (5年確立降雨時)</p>	<p>(955万人) 7.6%</p>	<p>(56.5万 人) 13.6%</p>	<p>1.8倍</p>
<p>災害発生件数</p> <p>通行規制を伴う災害発生件数 (1000 kmあたり) (H8 ~ H12平均) 対象道路 : 市町村道以上、ただし、高速道路は除く</p>	<p>6.8件</p>	<p>13.7件</p>	<p>2.0倍</p>

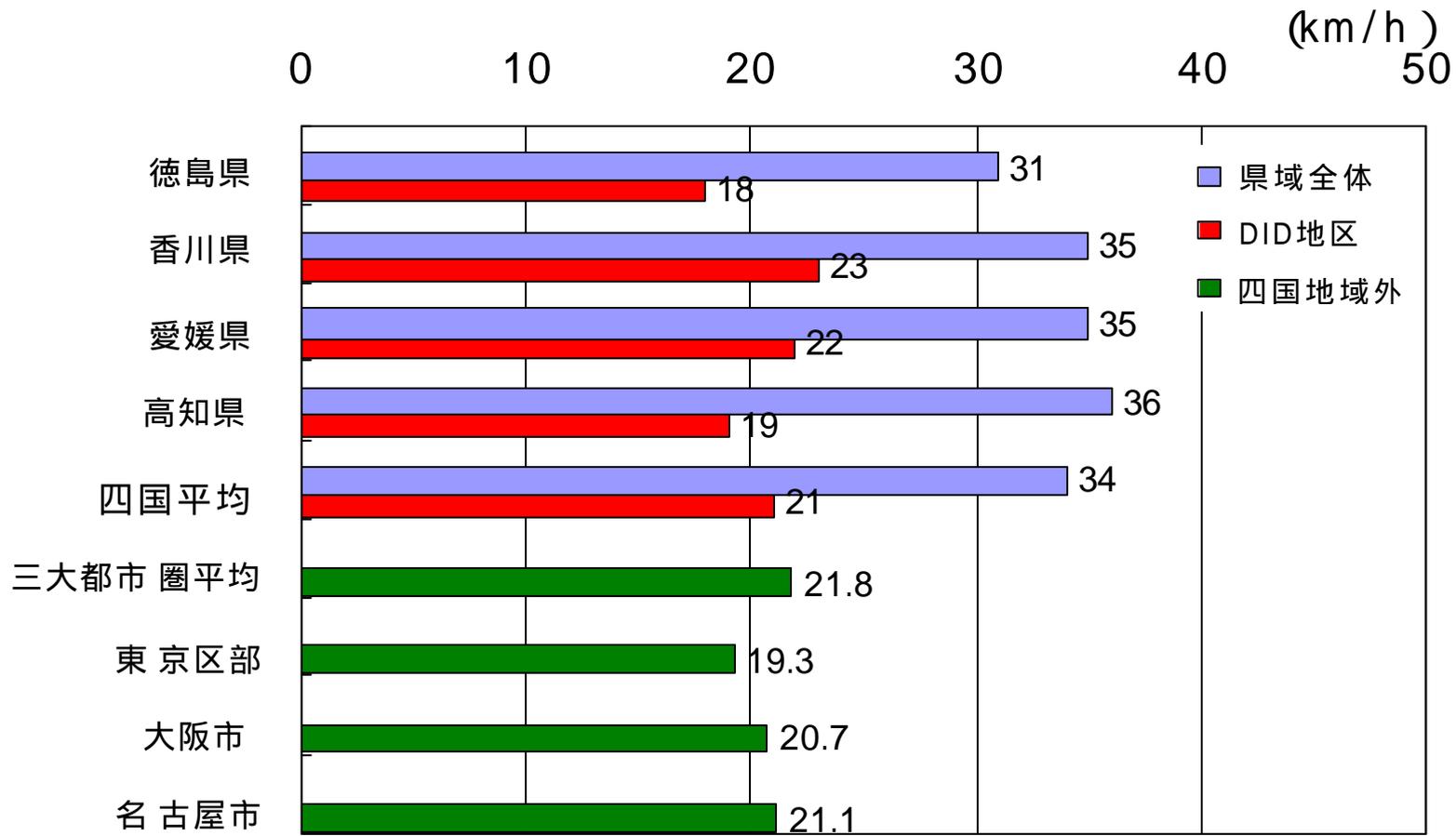
● 多大な渋滞損失が県都に集中

渋滞損失額 (直轄国道のみ)



● 県都の旅行速度は 3大都市圏並み

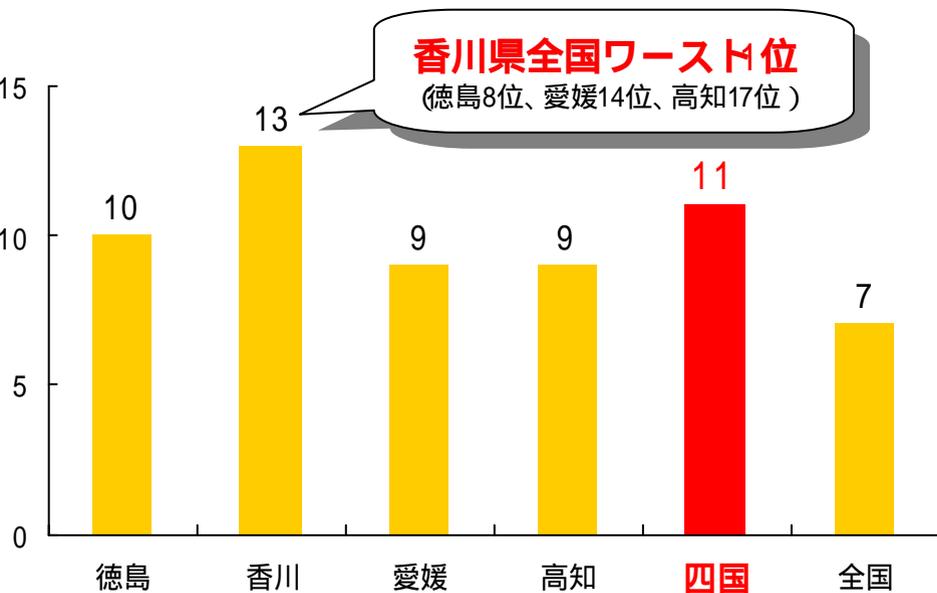
DID地区内及び県域全体の平均旅行速度比較 (県道以上)



注) 三大都市圏は都市高速相当を除いた数値

全国的に高齢者の交通事故率が高い四国

人口10万人あたりの交通事故死者数



歩行中および自転車乗車中における高齢者10万人あたりの交通事故死者数

歩行中



自転車



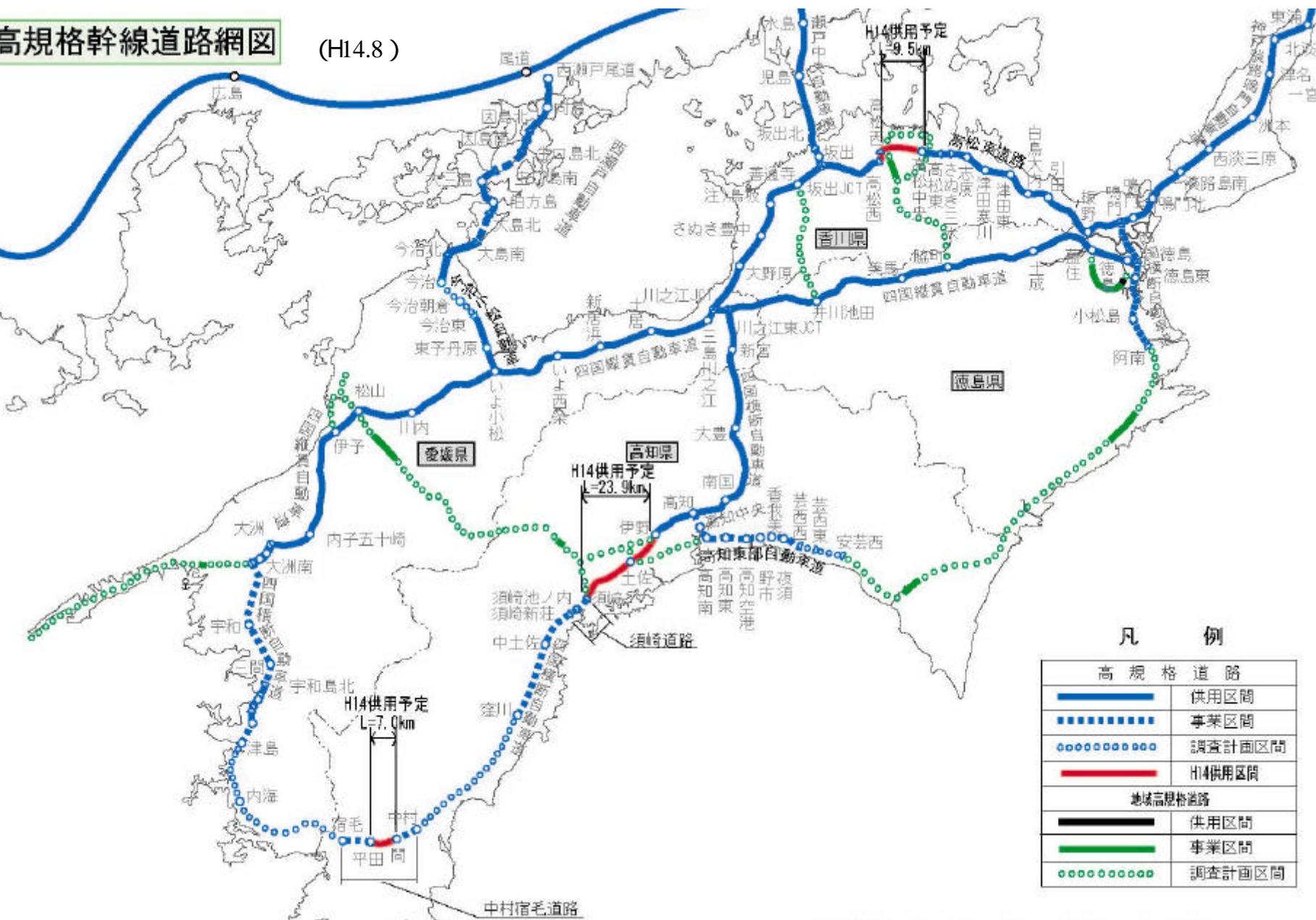
未だに道路ストックが不十分

整備のスピードアップが最大の課題

より効率的な道路整備の要請

高規格幹線道路網図

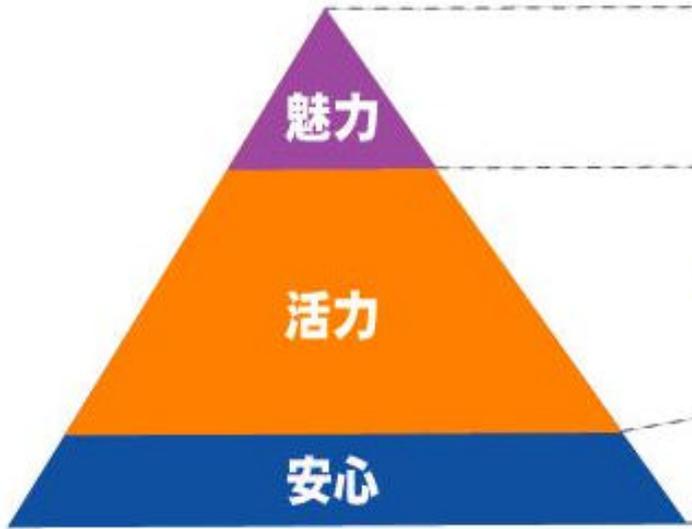
(H14.8)



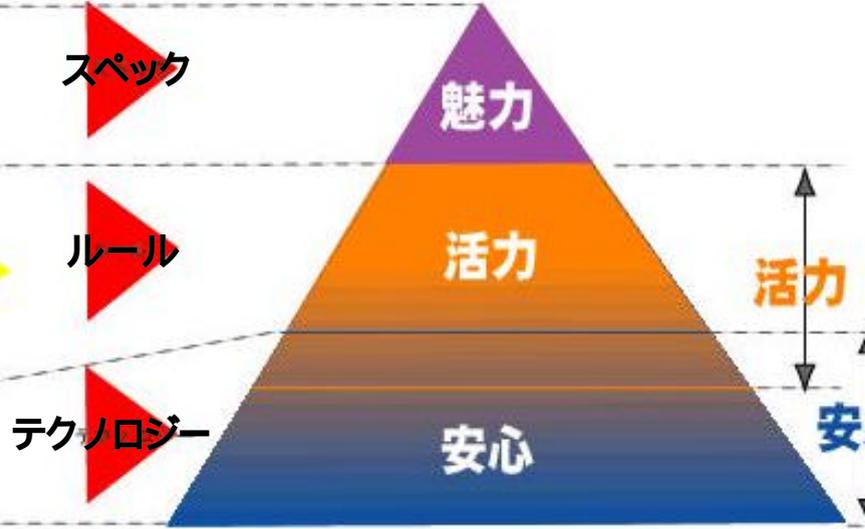
高規格道路	
	供用区間
	事業区間
	調査計画区間
	H14供用区間
地域高規格道路	
	供用区間
	事業区間
	調査計画区間

※10名以内は、供用中を除き赤字で表示

これまで



これから



四国の新たな道づくりの変革の方向

施策の重点化、計画の適正化

ローカル・スペックの導入

既存ストック活用の推進

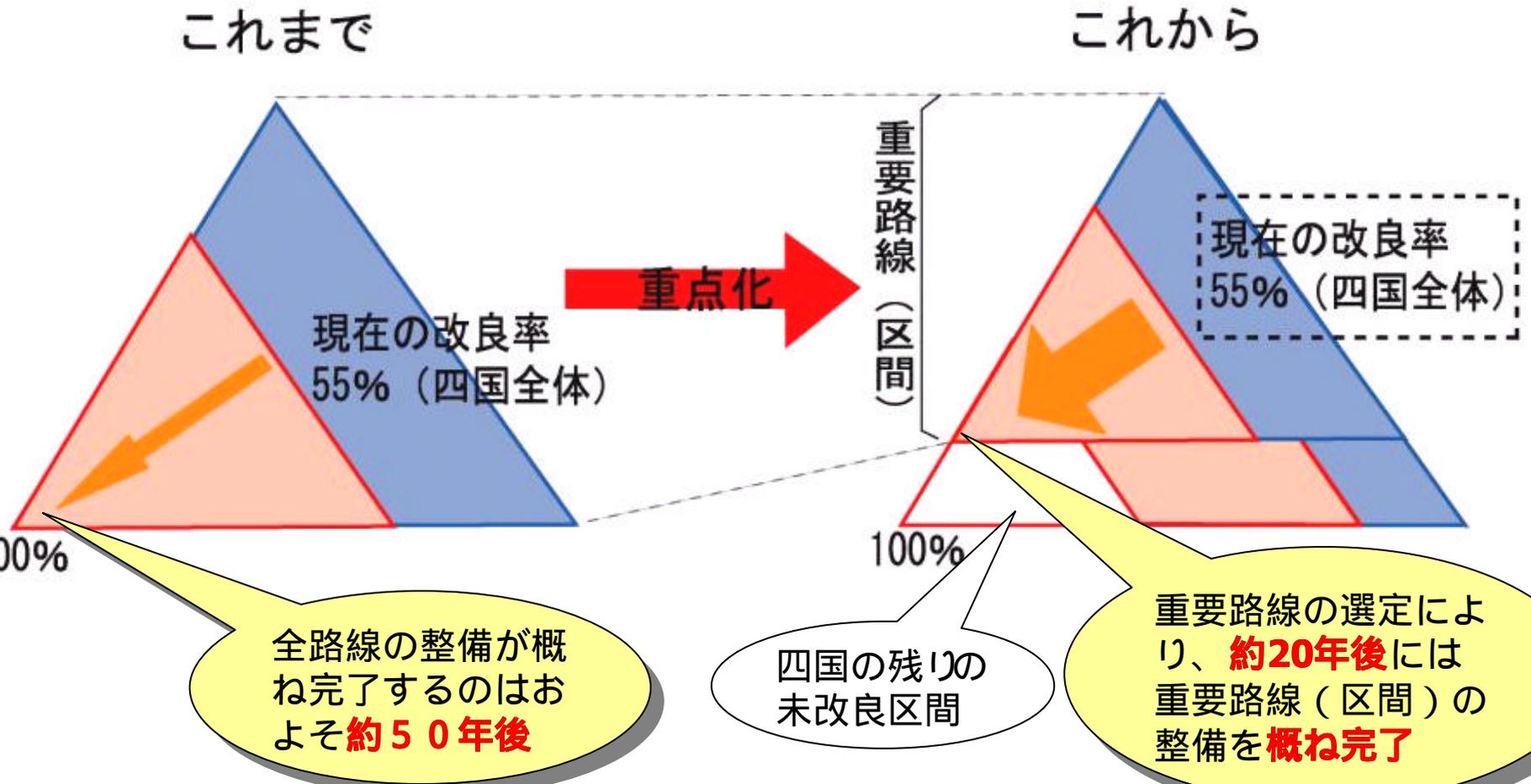
地域との協働 連携の推進

四国らしさの発揮 (四国の自然と文化を活かす)

施策の重点化、計画の適正化

整備対象路線の厳選と重点化の考え方

下図の改良率 四国内の国道及び県道の改良率

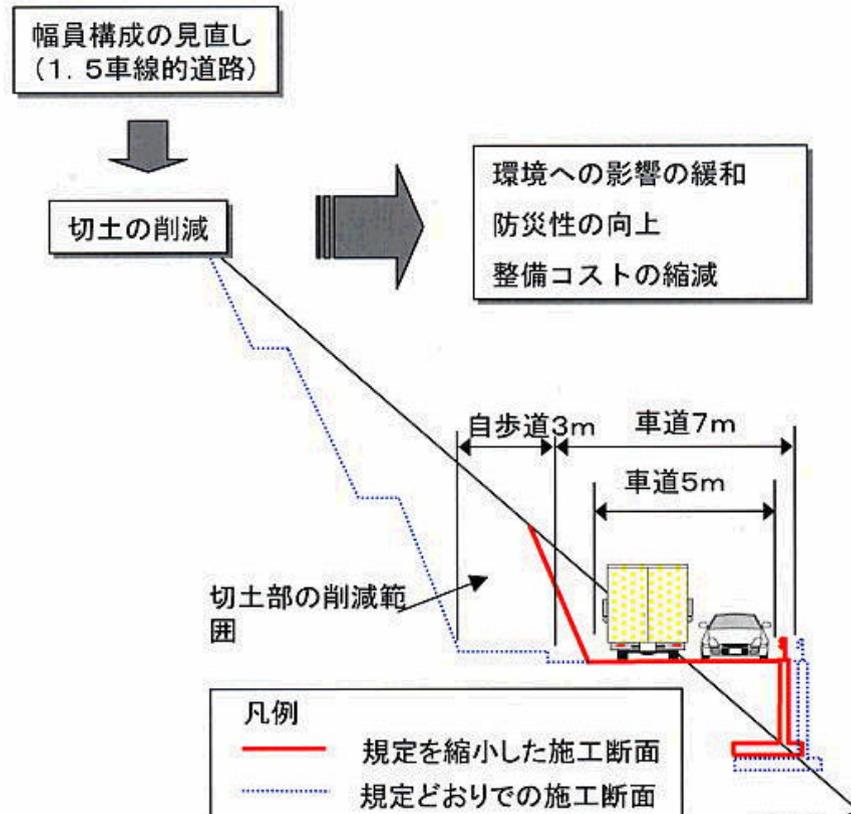


ローカル・スペックの導入

現場の状況に応じた1.5車線の整備手法により事業のスピードアップを図る

高速道路の2車線化整備により信頼性の高い移動サービスを提供する

山地部補助幹線道路の1.5車線の整備

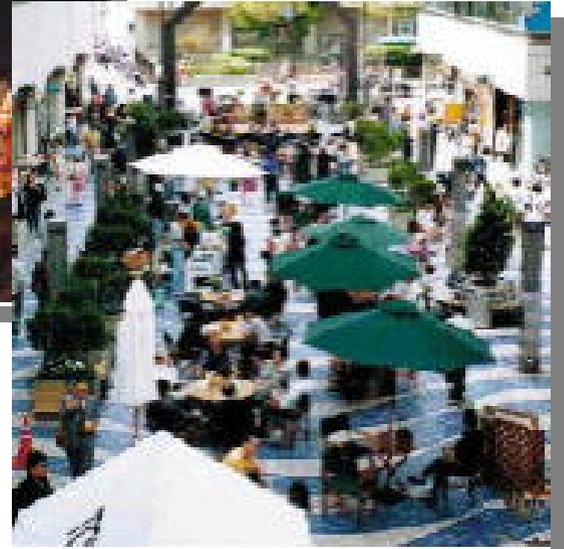


既存ストック活用の推進

既存道路を活用して現道の高機能化を図る

人が集い憩える快適な道路空間を整備し、地域の魅力向上を図る

イルミネーション環境整備



オープンカフェ環境整備



あずまや等休憩施設整備



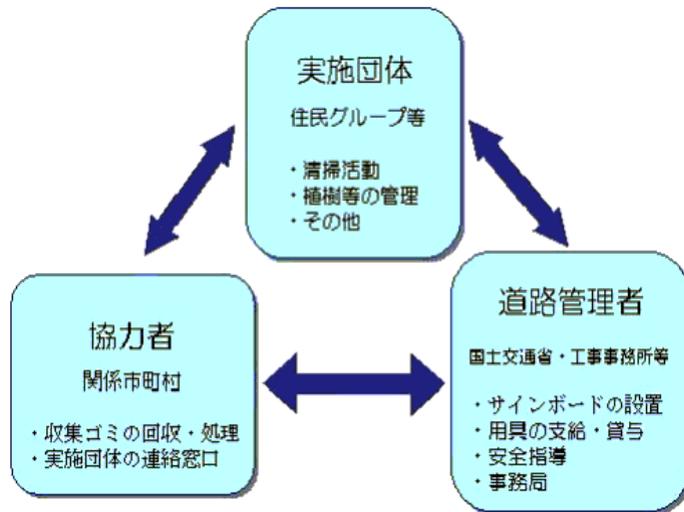
バス専用トンネル歩行者照明

地域との協働・連携の推進

四国の伝統的な地域協力の精神を活かして道路管理の効率化を図る

ボランティア・サポート・プログラムの推進

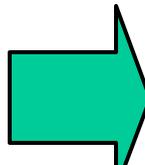
【プログラムの仕組み】



【活動状況】



効率的で質の高い管理



- ・道路管理の効率化
- ・管理コストの縮減
- ・道路への愛着心醸成

四国らしさの発揮 (四国の自然と文化を活かす)

遍路道や歴史街道を住民やNPO等と協働して安全で快適な歩道を整備する

新四国のみち事業



江戸時代の史跡水路を活かした遊歩道

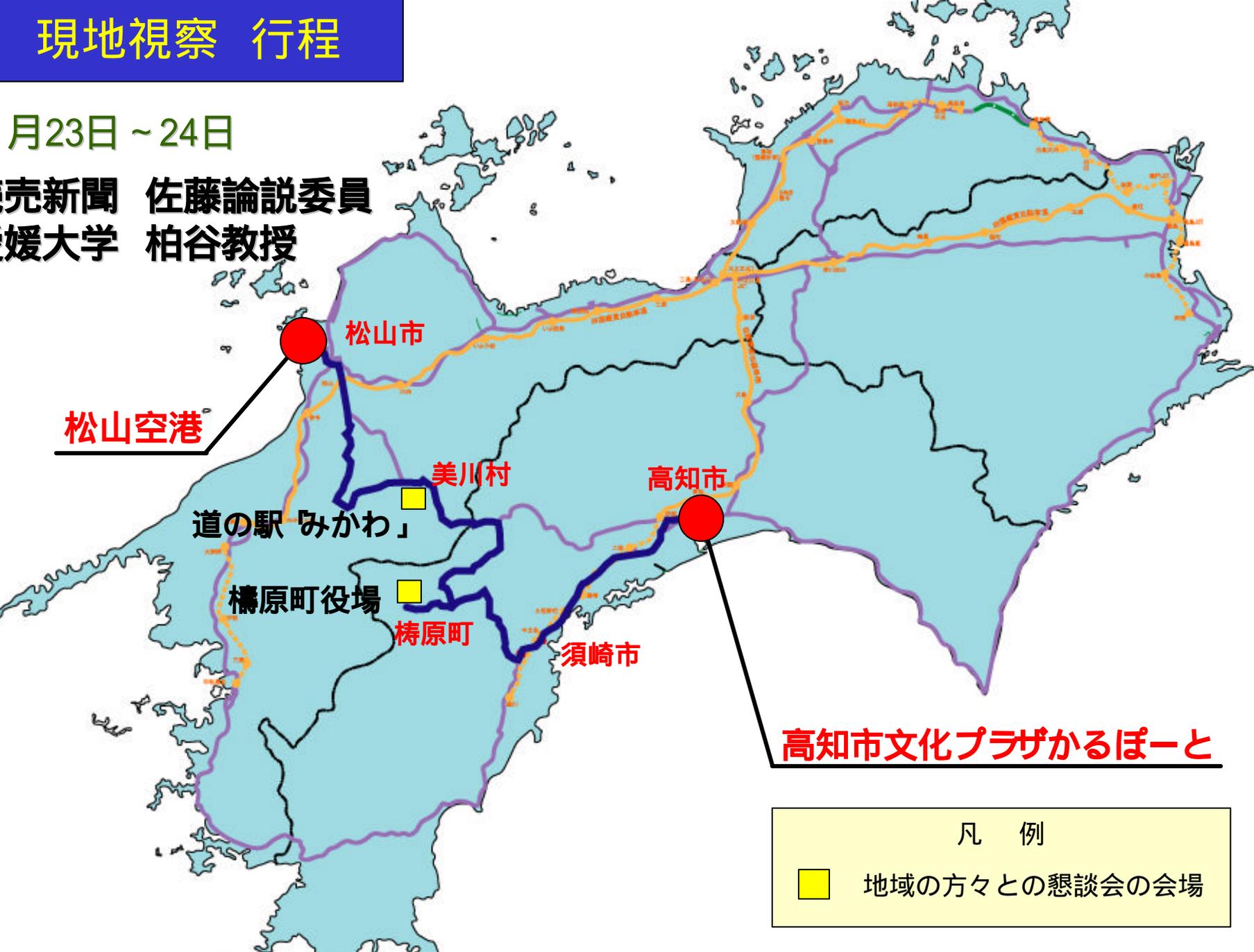


歴史的な街並みにふさわしい石畳舗装

現地視察 行程

月23日～24日

産経新聞 佐藤論説委員
愛媛大学 柏谷教授



すれ違い困難な国道 379号



道の駅「みかわ」での地元との懇談会



国道33号 橋防災対策箇所



橿原町役場での地元との懇談会



地元で保存している道路脇のあずまや（檜原町）

